

## 特集 座談会

# ベトナムにおける推進工法の 普及活動に貢献した 下水道政策アドバイザー（JICA専門家）

つ も り  
津森 ジュン

お か や す    ゆ う じ  
岡安 祐司

も り た    ひ ろ あ き  
森田 弘昭

わ こ う    た か と し  
若公 崇敏

い ば ら き    ま こ と  
茨木 誠

た ち と    の り ひ で  
田本 典秀

【司会進行】

**森田**：本日は、公務の合間を縫ってご参集いただきありがとうございます。推進工法に限らず海外進出には企業の進出意欲が最も大切ですが商習慣や文化、歴史、地形が異なるなかでの新規事業には様々なサポートを受けることが成功のポイントだと思います。

本誌読者が取り組んでいる下水道事業などの公共事業は一般にいわゆる川上の情報を得ることが重要でありそういう意味で進出国政府や現地建設業の実態などの情報を得ることは成功のための重要な要素と考えています。

日本政府は世界中の国と地域の発展のために経済援助や技術援助を行っています。人道的援助のひとつとして多くの途上国に必要とされる分野ごとに政策アドバイザーを派遣しています。彼ら・彼女らの仕事は多岐に渡りますがベトナムでの推進工法の普及は本日お集りの歴代政策アドバイザーの活躍無くしては成しえなかったと思います。下水道分野におけるベトナムと日本の協力関係は、2010年12月8日にベトナムと日本が「ベトナムの下水道

建設・運営支援の覚書」を締結したことに始まります。その時の写真が本誌の2011年1月号に巻頭グラビアで紹介されています。そこには政策アドバイザーとしてベトナム政府に派遣されていた津森さんもしっかり写りこんでいます。以降、途切れることなく政策アドバイザーの樞が受け渡され現在は6代目の政策アドバイザーとして柴田さんが昨年4月に着任しています。

本日は、ベトナムで皆さんがどんな仕事をしてきたかなというのを紹介していただきながら、苦勞したことやうまくいったことなどをお話ししてください。また、差支えのない程度にプライベートの過ごし方などもご披露いただけると読者もベトナムへの関心が高まるのではと思います。

最後にベトナム進出を考えているもしくは、すでに進出している企業の人たちに対してアドバイスなどをいただけたらと思っています。まずは津森さんから政策アドバイザーの仕事ぶりからお話いただけますか。

**津森**：私の頃は下水道政策アドバイザーという肩書き

## 国と国、人と人、文化と文化の 架け橋となって活躍した 政策アドバイザーに感謝

進行役

もりた ひろあき  
森田 弘昭

日本大学生産工学部土木工学科教授  
GCUS 東南アジア委員会委員長  
(本誌編集委員長)



ではなく、都市環境政策アドバイザーという肩書であり、上水道、下水道のほか、浄化槽、廃棄物や火葬場といった都市環境に関わる助言を行っていました。15年前のことなので記憶が薄れていましたが、本座談会の

お話をいただいた機会に探してみたら当時の帰国報告書（2013年）を見つけ出し当時のことを思い出しました。

赴任期間は2010年5月27日から2013年5月26日の3年間でした。ベトナム建設省技術インフラ局（以下、MOC）に派遣されました。既にベトナムでは、（独）国際協力機構（以下、JICA）の技術協力プロジェクト（以下、技プロ）としてビンフン下水処理場の管理技術向上を目的に東京都、横浜市の方々と国交省から岩崎さん（現日本下水道事業団近畿総合事務所長）が派遣されていました。その技プロによりホーチミン市との協力関係ができ上がっていて、私が出向いても違和感なく受け入れていただけました。その時の協力関係がベースになり、後のホーチミンの下水道プロジェクトにつながったのだと思います。

私が赴任した当時のベトナムは、経済発展に伴い都市化が進み、これから上下水道を整備する必要がありそのために必要となる法律や基準などはまだ十分に整備されていませんでした。私の仕事はベトナム政府の職員が作った制度や基準の案について日本や欧米、他の途上国の事例を踏まえてアドバイスすることでした。MOCとの仕事の進め方は、定期的というより、その都度生じた彼らからのリクエストに対してひと月ぐらいでレポートを作成して報告するという感じでした。また、円借款で下水道整備プロジェクトを進めようとしていたビンズオンやフエなどの地方に出向き現場レポートを作成して提出することもありました。他にも、日本から訪越される方々と意見交換するなどの対応もありました。月に一度、世界銀行、ドイツ国際協力公社（GIZ）などとのドナー調

